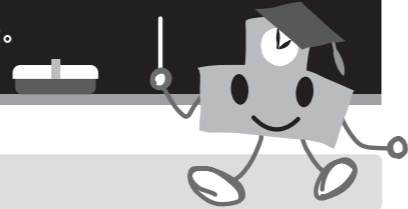


緑を増やそう！ 伝統的な継続した花壇づくりの取組。

土づくりから行う栽培活動や
コンパニオンプラントなども取り入れ、
自然について考え、環境を守る気持ちを育てる。
育てた気持ちを老人会や地域の方を招いて発表。



内容 環境意識と地域交流を目的に

本校では、4年生が玄関前や歩道のマス花壇に花を植え、緑を増やそうとする意識を育てている。この活動は長年続いている伝統的な取組である。

1、2年生は、一人一鉢のアサガオを栽培している。枯れた後には、そのつるを使用してクリスマスリースを作成し家庭に持ち帰っている。

2年生は、学年園でマリーゴールドとトマトを組み合わせ、無農薬で栽培を行っている。この2つは一緒に栽培することで害虫を防いだり風味をよくしたりなど、互いの成長により影響を与え合うため、共栄作物（コンパニオンプランツ）といわれている。栽培にあたって児童は、教員とともに土づくりから行っている。

4年生は総合的な学習の時間に、地域の老人クラブと一緒に玄関前や歩道のマス花壇に花を植えている。種はPTA予算で購入している。水やりは毎日行っており、当番制など学年によって様々な方法で実施。

環境へ意識を向けるとともに、地域との交流も目的として行っている。学習発表会には、老人会や地域の方にお知らせをして見に来てもらっている。



花壇の植栽



マリーゴールド

今後 体験することで実感し 理解を

環境学習では、体験することをとおして学びを深めることができる。本校では、体験をコンセプトに様々な活動を行っている。前述の栽培活動の他には、10月にグリーンフェスティバルが行われる。

グリーンフェスティバルとは、児童会による出店集会のこと。看板づくりや出店内容を考えることをとおして、リサイクルや資源の大切さに目を向けることを目的に開催している。

3年生以上が学級ごとにテーマを決めて出店。ペットボトルを利用した輪投げ屋を出店するなど、身の回りのものを活用したり、使用後も再利用できるように片付けている。1、2年生は、カードや看板づくりなどを担当。集会の看板は色画用紙の切れ端を利用したちぎり文字で作られている。

イベントで使用した段ボールをリサイクルしてごみを減らすようにしたところ、前年と比べてごみの量が3分の1にも減少した。目に見える結果があると、知識として情報を得ていることにもより理解が深まる。このように、体験することで実感をともなった学びとしていくことが大切である。今後もこのような体験を生かした学習を多く行っていきたいと考えている。



ミニトマトの栽培



ミニトマト

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

本校ではリングブルの収集にも取り組んでいます。玄関に収集箱を設置して収集し、年に数回計量した結果を校内放送で発表しています。

また、出前授業などで専門家から話を聞くことも、児童にとっては大きな刺激となり、ずっと心に残る体験になるのではないかと思います。機会があればぜひ利用したいです。